

スペインで 見逃せないミュージアム



www.spain.info

はじめに

スペインは、芸術を楽しむために最適な目的地です。スペインには1600以上の美術館があり、中には世界的に有名なコレクションを所蔵するものもあります。

様々な文明と文化が交錯したイベリア半島には、高い価値を有する多くの文化・芸術遺産が存在します。

マドリードの中心地、芸術の散歩道という意味を持つ「パセオ・デル・アルテ」と呼ばれる地区には世界的に有名な3つの美術館が集まっています。プラド美術館、ティッセン＝ボルネミッサ美術館、そしてソフィア王妃芸術センター、これら3つを見学するだけでもスペインの首都を訪れる価値があります。

これらの美術館、およびバルセロナのピカソ美術館、ダリ劇場美術館（フィゲラス）、セビージャ美術館など、たくさんの魅力あふれるミュージアムを訪ねれば、歴史に名を残すスペインの巨匠たちが描いた素晴らしい作品を鑑賞することができます。

メリダの国立古代ローマ美術館で見られるヒスパニア時代の芸術から、バレンシアにあるバレンシア現代芸術院(IVAM)やビルバオのグッゲンハイム美術館、あるいはマラガのポンピドゥーセンターなどで展示されている現代アートのトレンドまで、多様なミュージアムを訪れることで様々な歴史に触れることができます。そしてそれは、あなたの旅をより豊かなものにしてくれます。



遠い過去から現在に至るまでには、偉大な巨匠たちによる傑出した作品が存在します。例えばベラスケス、ムリーリョ、スルバラン、ゴヤなどは、17世紀、18世紀、そして19世紀の絵画に変革をもたらしました。20世紀初頭には、ピカソ、ファン・グリス、ジョアン・ミロなどが登場し、前衛芸術が台頭しました。彼らの後には、キュビズム彫刻のフリオ・ゴンサレス、シュルレアリスムのダリやマルーハ・マジョが続き、さらにはエドゥアルド・チリーダやホルヘ・オテイサが独創的な作品を生み出します。

スペインへの旅で芸術の殿堂を訪ねたいと考えるあなた、是非ともこれらのミュージアムに立ち寄ってください。半島全土をカバーする空路、高速鉄道、道路網などスペインには素晴らしい交通インフラが整っているので、快適かつ迅速な移動が可能です。

それ自体が芸術作品として観る者にインパクトを与えるミュージアム、そしてそこに所蔵される芸術の至宝ともいえる作品の数々、是非、ご自分の目でご覧ください。

絶対見逃せない15のミュージアム



pan/123rf.com

▲ プラド美術館
マドリッド

国立 プラド美術館

UNESCOの世界遺産に登録された芸術と科学の散歩道であるプラド通りとブエン・レティロ通りを歩いて行くと、細長い大きな建物、プラド美術館が見えてきます。庭園に囲まれた新古典主義の壮麗な建物、おびただしい数の柱、円形浮彫り、そして女性像彫刻から成るドーリア式のファサード、すこし足を止めてその美しさを鑑賞してみませんか。

すぐそばにベラスケスの像があり、この入口はベラスケスの門と呼ばれています。当初、この門は国王や要人専用の入り口として使われていました。

美術館に入ると最初のスペースは柱と丸天井から成る印象的なロタンダになっており、その中央に立つ16世紀の壮大な彫刻作品、「**狂乱を屈服させるカール5世**」(Carlos V y el Furor)像が目を引きまます。数メートル進むと広いギャラリーに出ますが、ここはプラド美術館の心臓とも言える重要な部分です。ここにはヨーロッパ絵画の巨匠らの作品が彫刻や装飾品と共に展示されています。

一日中、ここで過ごせるのであれば、ひとつひとつの作品をじっくり鑑賞してはいかがでしょうか。反対に、時間が限られているのであれば、事前にプラド美術館

のウェブページで紹介されている短時間用鑑賞ルートを調べて、有名な作品を見逃さないようにしましょう。特別入場券（12名～30名のグループ対象）を購入すれば、一般入場開始前の時間帯に貸し切り状態で館内を回って鑑賞することができます。

プラド美術館は、ベラスケスとゴヤの作品をかなり多く所蔵しています。中でも有名なものとして、ベラスケスの「**バッカスの勝利**」(*El triunfo de Baco*)、「**キリストの磔刑**」(*El Cristo crucificado*)や「**織女たち**」(*Las hilanderas*)、あるいはゴヤの「**裸のマハ**」(*La maja desnuda*)、「**着衣のマハ**」(*La maja vestida*)や「**マドリッド、5月3日**」(*El 3 de mayo en Madrid*)、などが挙げられます。その他にも、ムリーリョ、リベラ、モラレスやソローリャといった傑出したスペイン人画家のコレクションも展示されています。

スペイン絵画以外にも、イタリア、フランドル、フランス、ドイツ、オランダ、イギリスなどの絵画の巨匠たちの作品も展示されています。その中には**グレコ**の「**胸に手を置く騎士**」(*El caballero de la mano en el pecho*)、**ルーベンス**の「**三美神**」(*Las tres Gracias*)、**ボス**の「**快樂の園**」(*El jardín de las delicias*)や**デューラー**の「**アダムとイヴ**」(*Adán y Eva*)など、世界的に有名な作品があります。これらの作品と共に、**ティツィアーノ**、**カラヴァッジオ**、**ラファエロ**、**フラ・アンジェリコ**や**レンブラント**などの作品を観ることもできます。前述の巨匠たちは、世界有数の絵画コレクションを誇るプラド美術館で鑑賞できる画家のほんの一部に過ぎません。

▼ ボス展示室
プラド美術館、マドリッド





▲ 「ラス・メニーナス」の細部、ベラスケス
プラド美術館、マドリード

プラド美術館訪問をより思い出深いものにするために、著名なスペイン人建築家ラファエル・モネオの設計による増築部分にも是非、立ち寄ってください。ここにはカフェテリア、ショップ、インフォメーションセンターなどがあります。

増築部分で最も興味深い場所は、修復されたヘロニモス修道院の回廊でしょう。独特の空間の中に同美術館が所蔵する素晴らしい彫刻のコレクションが展示されている他、特別展示などにも使用されます。回廊から外部への扉は、彫刻家クリスティーナ・イグレシアスがブロンズを素材に創り上げた作品です。

見逃せない名作

「ラス・メニーナス」(Las Meninas)、ベラスケス

1656年に制作された、スペイン絵画最高傑作のひとつとされる作品。これは、ベラスケス自身をフェリペ4世の家族と彼の使用人たちと一緒に描くという当時の慣例を度外視した構図に、複数の平面と遠近法が駆使された画期的な作品です。ベラスケスの傑作のひとつで、マドリードの王宮における日常のひとつが写実的にとらえられ、そこに生きる人々の様子が伝わって来ます。ゴヤは2世紀後に、この作品に着想を得て、彼の傑作のひとつとなる「カルロス4世の家族」(La familia de Carlos IV)を描きますが、同作品もここで観ることができます。

① 詳細情報および入場券に関しては
以下をご覧ください：

www.museodelprado.es

国立ソフィア王妃 芸術センター

パセオ・デル・プラド（プラド通り）を歩いて行くと、アトーチャ駅のすぐそばにマドリッドで最も重要な美術館のひとつが見えてきます。プラド美術館に展示されている作品の後の時代の芸術、近代美術と現代美術の作品を、2つのユニークな建物が連結してできているこのミュージアムで鑑賞することができます。

この美術館の本館は、18世紀にマドリッドの病院だった建物を修復したサバティーニ館にあります。真っ先に目を引くのは、2つの塔で、ガラスとスチールで造られた展望エレベーターとなっています。エレベーターからは外の広場やマドリッドの街並みの眺望が楽しめるので、カメラの準備をして昇りましょう。

館内では、**パブロ・ピカソ**、**サルバドール・ダリ**、**ジョアン・ミロ**、**ファン・グリリス**や**アントニ・タピエス**など著名画家の作品を集めた、スペイン近現代芸術のベストコレクションのひとつを鑑賞することができます。また、それら以外にも、**カンディンスキー**、**フランシス・ベーコン**、**ディエゴ・リベラ**、**ロベール・ドロローネー**や**イヴ・クライン**などの、世界各国の画家たちによる重要な作品が、想像できるあらゆる形式で展示されています。

館内で鑑賞できる著名な作品の一部として、ダリの「**窓辺の少女**」(*Figura en una ventana*)や「**大自慰者**」(*Rostro del gran masturbador*)、ミロの「**パイプをくわえた男**」(*Hombre con pipa*)や「**カタツムリ、女、花、星**」(*caracol, mujer, flor, estrella*)、ルネ・マグリットの「**ピンクの鈴、断片の空**」(*Cascabeles rosas, cielos en jirones*)やフランシス・ベーコンの「**横たわる人物**」(*Figura tumbada*)などが挙げられます。



▲ 国立ソフィア王妃芸術センター
マドリッド

サバティーニ館の中央にあるパティオは噴水や彫刻のある庭園となっているので、鑑賞に疲れたらここでリラックスしたり、休憩したりできます。パティオでリフレッシュしたら、フランス人建築家、**ジャン・ヌーヴェル**が設計した新館へ向かいましょう。この建物は巨大な赤い屋根とその三角形のフォルムが目を引きます。館内に足を踏み入ると、中央の広いスペースに立つ**ロイ・リキテンスタイン**作の大きな彫刻が迎えてくれます。ここから館内の2フロアに展示されるコレクションスペースに進むことができます。



国立ソフィア王妃芸術センター
マドリッド

ソフィア王妃芸術センターでは、年間を通じて多数のワークショップ、特別展、またはイベントを開催しています。また、ヌーヴェル館の地上階には、観る者を圧倒するような公立図書館と文書センターがあります。カラフルな色彩といろんな料理のテイストに満ちたカフェテリア・レストランにも立ち寄ってみましょう。テラスでランチを楽しむもよし、DJがプレーするユニークな空間で美味しいディナーを堪能するのもいいですね。

見逃せない名作

ゲルニカ、ピカソ

このミュージアムで最も有名な作品、それがこの大きな絵画です。下絵のスケッチや制作過程の写真などが隣接する部屋に展示されています。この歴史的な作品に表現されている光景をピカソに描かせるもの、それはバスク地方の小さな村に対して行われたドイツ軍とイタリア軍（スペイン内戦時、両軍は、第二共和制政府に対してクーデターを起こした反乱軍に加勢して戦っていた）による空爆でした。この作品にはこの村の名が冠されています。ある時代の悲劇的な状況を映し出すキャンバスは、非道で残虐な戦争を糾弾する主張そのものであり、やがて世界に知られる反戦と平和の象徴となりました。

① 詳細情報および入場券に関しては
以下をご覧ください：

www.museoreinasofia.es



写真：gkrm/123rf.com

COLECCIÓN CARMEN THYSSEN- BORNEMISZA

SALAS ROOMS A — H

Desde que comencé a adquirir obras de arte a mediados de la década de 1980, con una pasión que debo a mi marido, el barón Hans Heinrich Thyssen-Bornemisza, he admirado la espléndida capacidad que tienen las obras de arte para emocionar y unir a las seres humanos. Siempre he sentido que el arte no es para uno solo y que debe ser compartido.

From the time when I began to acquire works of art in the 1980s with a passion that I owe to my husband, Baron Hans Heinrich Thyssen-Bornemisza, I have been profoundly impressed by the remarkable capacity that works of art have to move and unite human beings. I have always felt that art is not for one person alone and should be shared.

CARMEN THYSSEN-BORNEMISZA



▲ 国立ティッセン＝ボルネミッサ美術館
マドリッド

国立ティッセン＝ ボルネミッサ美術館

パセオ・デル・プラド（プラド通り）に入るとすぐに見えてくる、ネプチューンの噴水のそばにある美しい庭園を通り抜けると、西洋美術と絵画史をたっぷり鑑賞できるこのミュージアムへと辿り着きます。この建物は、かつて貴族の邸宅だった**ビジャエルモサ宮殿**をラファエル・モネオが修復したもので、現代のミュージアムにマッチした美しい空間に生まれ変わりました。

コレクションは、長年にわたって名作を蒐集してきたティッセン＝ボルネミッサ家の嗜好を反映しています。多くの著名なアーティストの作品が含まれていますが、それらのほんの一部としてラファエロ、ティツィアーノ、セザンヌ、ヴァ

ン・ゴッホ、ピカソ、ファン・グリス、ドガ、ホッパーなどの名前を挙げることができます。また、ティッセン＝ボルネミッサ家と親交のあった彫刻家、オーギュスト・ロダンの作品も鑑賞することができます。

ファン・エイクの**二連祭壇画「受胎告知」**（Anunciación）を鑑賞し、その驚くべき三次元的効果を体験してみませんか。作者は、描かれた像がまるで本物の石像であるかのように、見る者の目を欺きます。カラヴァッジオの作品「**アレクサンドリアの聖カタリナ**」（Santa Catalina de Alejandría）に使われている明暗法技術や、コミック手法を取り入れて60年代のアートに変革をもたらした、ロイ・リキテン



▲ 国立ティッセン=ボルネミッサ美術館
マドリード

スタインの「入浴中の女」の驚くほどポップなアートを鑑賞しましょう。

この美術館ではまた、テーマ別の順路を設けて、それに合わせたオーディオガイドを提供しています。ファッションの変遷をたどる旅、宝飾品アート、絵画におけるガストロノミーなど、独自のアングルから展示作品を鑑賞するユニークな方法です。

このミュージアムを訪ねることで、芸術の散歩道を意味する「パセオ・デル・アルテ」の美術館鑑賞が完了します。プラド美術館、ソフィア王妃芸術センター、ティッセン=ボルネミッサ美術館の各常設展を観ることが出来る「パセオ・デル・アルテ」特別チケットの購入をお勧めします。そうすることで、各美術館で入場券を買うための長い列に並ぶ必要がなくなります。

また、3つの美術館の24の作品のオーディオガイドとして使える携帯電話用無料アプリ「絶対見逃せないパセオ・デル・アルテ」(Paseo del Arte Imprescindible)もお勧めです。



写真：©国立ティッセン=ボルネミッサ美術館

▲ 「緑の衣装を着けた踊子」(BAILARINA VERDE)、エドガー・ドガ
国立ティッセン=ボルネミッサ美術館、マドリード

見逃せない名作

「緑の衣装を着けた踊子」(Bailarina verde)、エドガー・ドガ

印象派の画家たちは、光、色、そして動きを捉えることで瞬間を描写することを試みました。そして、それらの試みにおいてドガは真の名人でした。1877年から1879年の間に紙にパステルで描かれたこの絵をはじめとする作品群がそれを証明しています。動きのある人物を描くための素材として、バレエに興味を持っていたドガは、写真や日本の版画にも影響を受けていました。劇場の栈敷席からカメラに収めたような構図からそれが伺えます。

① 詳細情報および入場券に関しては
以下をご覧ください：

www.museothyssen.org



写真：©Patrimonio Nacional

▲ 王室コレクションギャラリー
マドリード

王室コレクションギャラリー マドリード

面積は約40,000平方メートルありますが、その建物は王宮とアルムデナ大聖堂の間の広場からは見えません。その理由は、カンポ・デル・モロ庭園に向かって突き出すコーニスの仕上げとして垂直に建てられており、宮殿建築群の一部として完璧に溶け込んでいるためです。エミリオ・トゥニョンとルイス・M・マンシージャによって考案された魅力的なデザインは、数多くの重要な建築賞を受賞しました。

通常の入りはアルメリア広場、グループ用の入口はクエスタ・デ・ラ・ベガにあります。

館内には自然光が注ぎ、スペイン君主制の文化と歴史を巡る王立コレクションギャラリーの常設展で650点の作品セレクションを鑑賞できる特別なひと時を過ごすしながら、カンポ・デル・モロとカサ・デ・カンポを見渡す素晴らしい景色も堪能できます。

高さ6メートルの堂々とした**チュリゲラのソロン様式の柱**4本が訪問者を歓迎し、重要な絵画、彫刻、タペストリー、武具、馬車、家具、装飾芸術が1階から2階にかけて展示されています。

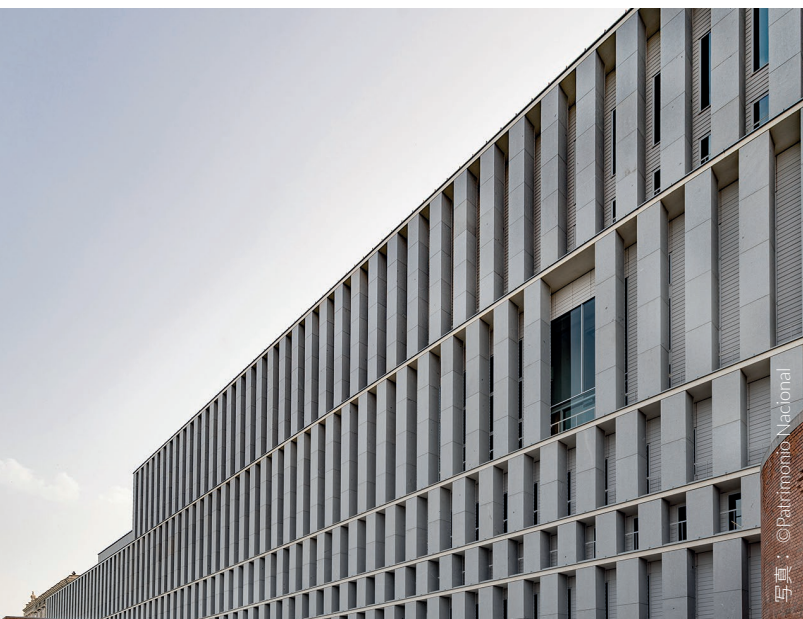


写真: © Patrimonio Nacional

▲ 王室コレクションギャラリー
マドリード

貴重なコレクションは地下1階と地下2階に展示されています。地下3階は、特別展示室と「エル・クーボ」(立方体)と呼ばれる没入型のスペースがあります。

カラヴァッジオの熟練の技と彼の作品「洗礼者ヨハネの首を持つサロメ」は必見です。ファン・デ・フランデスの作品「カトリック女王イサベルの多翼祭壇画」の美しい細密画も注目に値します。精巧なタペストリーの作品では、ゴヤの描いた光景の「ブランコ」やベラスケスの傑作である騎手のいない「白馬」を鑑賞することもできます。

さらに、動画や模型などさまざまな手段を通じて、エル・エスコリアル、ラ・グランハ、アランフエスなど、国有遺産局が管理する王室所有の建築物について学べるだけでなく、現在行われている重要な研究活動、記録作成、保存作業についても知ることができます。



写真: © Patrimonio Nacional

▲ 黒馬車
王室コレクションギャラリー、マドリード

見逃せない名作 黒馬車。

現存する最古の馬車のひとつです。スペイン国王フェリペ4世の2番目の妃であるリアナ・デ・オーストリアの所有物でした。これは、ルイ14世の宮廷が贅沢の象徴としてヨーロッパ全土に課したフランスのグランカロスモデルの一台です。その繊細な彫刻と素晴らしい装飾の豊かさを賞賛するとともに、なぜ黒いのかを不思議に思うかもしれません。その理由は、そのクルミ材が黒檀の色を模倣するように染色されたためです。17世紀後半に製造された当時、黒檀はエキゾチックで非常に高く評価されていた素材でした。

① 詳細情報および
入場券に関しては以下をご覧ください：
www.galeriadelascoleccionesreales.es/

ラサロ・ガルディアーノ 美術館 マドリード

市中心部のセラノ通りには、この博物館が設けられている20世紀初頭の建物である**フロリド公園宮殿**があります。館内には、館長のホセ・ラサロ・ガルディアーノがマドリード、ニューヨーク、パリで生涯をかけて収集した重要な芸術作品のコレクションを見ることができます。

入場する前には、庭園をゆっくり散策し、コレクションの一部である12,600点の作品が収蔵されている貴族の館の屋外で寛ぎましょう。美術館には4つのフロアに約4,800点の展示品が展示されています。地上階には、**テニエール、メンガス、エル・グレコ、スルバラン、レイノルズ**や**サンチェス・コエーロ**などの作家の作品があります。さらに、まばゆいばかりの**宝物庫**に加えて、民間仕様の銀製品や宝飾品としてはヨーロッパを代表する名作のひとつに数えられる作品が展示されています。

1階に上がると、絵画、彫刻、家具、装飾芸術など、15世紀から19世紀のスペイン美術が豊富に展示されています。そして、**ゴヤ**作の「**魔女の夜宴**」や「**魔女たち**」などの代表作による優れた一連の絵画が訪れる人を待ち受けています。上層階の2階には、ヨーロッパを代表する流派に属する厳選された作品の数々が展示されています。**ボッシュ**の「**洗礼者聖ヨハネの瞑想**」、**ジョン・コンスタブル**の「**イースト・バーゴルトからフラットフォードへの道**」や**ルーカス・クラナハ**の「**洗礼者聖ヨハネが愛した幼子イエス**」などの優れた絵画を鑑賞できます。



▲ ラサロ・ガルディアーノ美術館
マドリード



ラサロ・ガルディアーノ美術館
マドリード

最上階は「コレクターズキャビネット」と呼ばれるコーナーとなっています。展示ケースや引き出しには、コインや織物からメダルや武器に至るまでが展示されています。また、繊細な陶器、エナメル、象牙、ガラス、ブロンズ、彫刻、銀製品も見ることができます。一生に一度のコレクションを楽しめるこの機会に、急がずゆっくりと見学することをおすすめします。



ラサロ・ガルデアーノ美術館
マドリード

写真：© Museo Lázaro Galdiano, マドリード

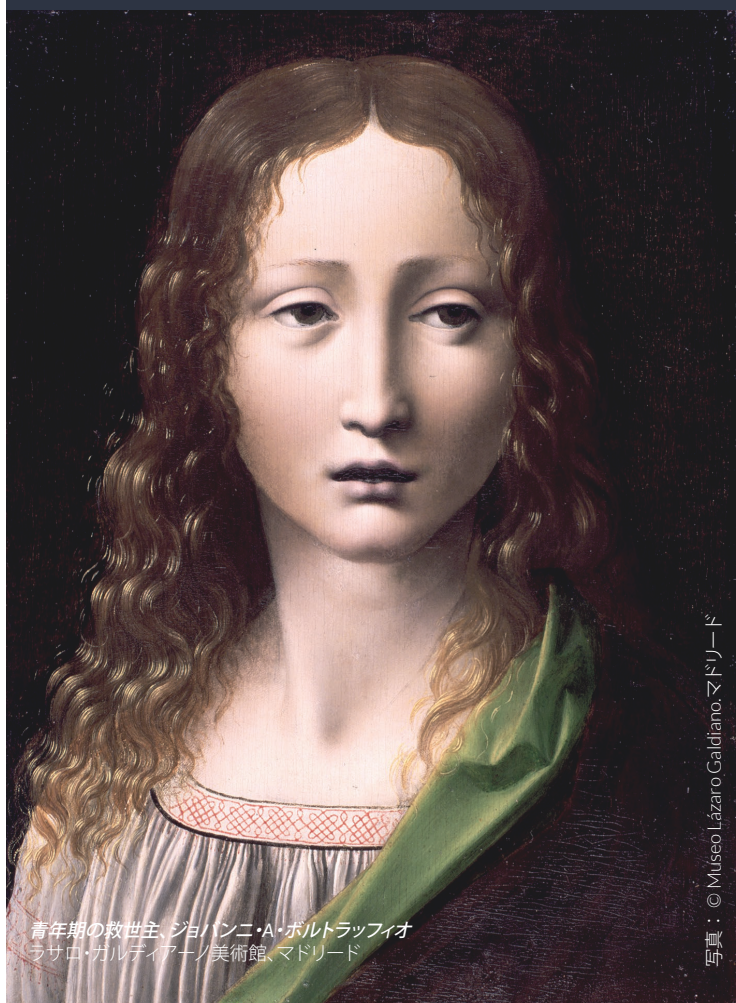
見逃せない名作

青年期の救世主、ジョバンニ・A・ボルトラッフィオ

レオナルド・ダ・ヴィンチはその才能を多方面に注いだため、ルネサンスのこの天才の署名が入った絵画は非常に希少です。実際、彼の作品の創作を説明するためによく使われる「失われたオリジナル」の多くは絵画ではなく図面でした。その一例が、クアトロチェントの最後にレオナルドの最も才能のあるミラネーゼ出身の弟子であるボルトラッフィオが巨匠のオリジナルデザインに基づいて、その直接の監督のもとに制作したこの精緻なロンバルダ工房の作品です。

① 詳細情報および

入場券に関しては以下をご覧ください：www.flg.es/



青年期の救世主 ジョバンニ・A・ボルトラッフィオ
ラサロ・ガルデアーノ美術館、マドリード

写真：© Museo Lázaro Galdiano, マドリード

ビルバオの グッゲンハイム美術館

ビルバオの河口に碇を降ろす、チタンで造られた大西洋航路客船にも見えるグッゲンハイム美術館は、観る者を圧倒します。カナダ人の建築家、**フランク・ゲーリー**のデザインで造られた非常に複雑で込み入ったフォルムのために、ファサードの各側面は異なる外観を有しています。ビルバオの市街地とその周辺の景色に完璧に溶け込んだ彫刻のような構造を持つこのミュージアムは、今やこの街のシンボルとなっています。

建物の外観は芸術作品そのものです。時間によって、あるいは天候によって、ファサードを構成するチタンの表面は様々な異なる色に輝きます。グッゲンハイム美術館では、外観に魅了されるだけでなく、入口の前で見張りをするこのミュージアムのシンボルとも言える**ジェフ・クーンズ**作の「パピー」(Puppy)やステンレススチール製の80個の球からなる**アニッシュ・カプーア**作の「高い木と目」(El gran árbol y el ojo)などの巨大な彫刻群も見逃せない見どころです。

そして、中に入ると、世界で最もユニークなミュージアムの1つに遭遇します。真ん中にある広い空間を中心として、ミュージアムは3つのレベルに分かれた構造となっています。曲線を多用したキャットウォーク、エレベーター、階段となっているタワーなどで異なる空間を繋ぎ合わせ、そのための素材としてゲーリーはチタン、ガラス、そして石灰石を選びました。このミュージアムの展示スペースはそれぞれ全く異なります。館内を見て回ると、巨大な作品に圧倒されたり、あるいはリラックスして身近に感じられる展示を楽しめたり、常に新しい驚きに遭遇することでしょう。





▲ グッゲンハイム美術館
ビルバオ

20世紀半ばから現在に至るまでの作品から成る常設展コレクションは、まさに現代美術そのものです。アンディ・ウォーホルがマリリン・モンローを繰り返し描いた一連のポップアート画や、それとは対象的に豊かな表現力で迫るロバート・ラウシェンバーグ作の巨大なシルクスクリーン画、「はしけ」(Barcaza)などを観ることができます。グッゲンハイム美術館に作品が展示されているトップアーティストらのリストは大きなものになりますが、その一部として挙げられるのが：ミケル・バルセロ、アントニ・タピエス、アンゼルム・キーファー、ゲルハルト・リヒター、ジャン＝ミシェル・バスキア、ジェームス・ローゼンクイストなどです。また、ここではバスク人の巨匠、エドゥアルド・チリーダやホルヘ・オテイサなどの彫刻作品も観ることができます。

リチャード・セラの巨大な作品群、「ザ・マター・オブ・タイム」(La materia del tiempo)は是非、お見逃しなく。スチールを素材とした8つの巨大な彫刻群、周囲を回ってみたり、中に入ってみたり、あなたの好きなように自由に鑑賞することができます。細い通路やそれが描く曲線を堪能することは、ユニークで忘れ難い体験となることでしょう。この作品は、館内で最も大きなスペースである柱の無い広いギャラリーに展示されています。8個のオブジェそれぞれが発する躍動感を近くで感じ取った後、2階にある展望ポイントに昇って上から全体を俯瞰して見るのもいいですね。

ミュージアムへの訪問をより楽しく思い出深いものにする様々な施設もあります。案内センター、お土産店&ブックショップ、カフェテリア、カジュアルなビストロタイプのレストラン、そしてミシュラン一星の高級レストラン。このレストランでは「料理」という芸術の名作を楽しむことができます。

見逃せない名作

「ママ」(Mamá)、ルイズ・ブルジョワ

ミュージアムの後ろ側に配置されているブロンズとスチールと大理石で造られた巨大な蜘蛛、その尖った脚の間をくぐり抜ける感覚、あなたも是非も体験してみてください。一瞥すると不安を抱かせる外観を持つこの作品には、様々な意味が込められています。フランス人の作者によると、母性の持つ2つの面を象徴していて、それは「檻」と「避難所」なのだそうです。

① 詳細情報および入場券に関しては以下をご覧ください：

www.guggenheim-bilbao.eus



写真：Isabel Fernandez Fernandez/123rf.com

▲ 「ママ」(MAMÁ)、ルイズ・ブルジョワ
グッゲンハイム美術館、ビルバオ



▲ ビルバオ
美術館

ビルバオ 美術館

グッゲンハイム美術館から徒歩わずか10分、ドンニャ・カシルダ公園の隣に位置しています。100年以上の歴史を持つこの美術館は、伝統的な建物に近代的な博物館の最新設備が備わった改装された姿で訪れる人々を迎えます。

同館のさまざまな展示室では、西洋美術の主要な芸術家、スタイル、流派の代表的な作品を鑑賞できる機会に恵まれます。展示作品の巨匠たちの一覧には驚きを覚えることでしょう。エル・グレコ、スルバラン、ムリーリ

ョ、スロアガ、ゴヤ、ソローリャ、ゴーチン、フランシス・ベーコン、エドゥアルド・チリーダ、アントニ・タピエス、ミケル・バルセロやリチャード・セラなどはそのほんの一部です。

「受胎告知」でエル・グレコの特徴的な細長い人物像と色彩を堪能し、「マチュー・ド・ノアイユ伯爵夫人の肖像」ではスロアガの妙技そして、ルーカス・クラナハ(父)の素晴らしい「ルクレティア」、ミケル・バルセロ作の「Despotirons」(カボチャ)の静物画などを鑑賞できます。

この美術館のコレクションには、2,000点以上の絵画と500点近くの彫刻が含まれており、また、素描、版画、ポスター、写真などの豊富なコレクションを収蔵しています。約800点からなる装飾美術品も所蔵しており、その中で日本美術のパラシオコレクションと14世紀から15世紀のマニセスの陶磁器の作品群が際立っています。



▲ LAVEUSES À ARLES (アルルの洗濯婦) ポール・ゴーギャン
ビルバオ美術館

見逃せない名作

Laveuses à Arles (アルルの洗濯婦)、 ポール・ゴーギャン

この作品は、スペインのパブリックコレクションに収蔵されたゴーギャンの最初の絵画です。彼はゴッホの依頼で訪れたフランスのアルルの町を滞在中の1888年にこの作品を描きました。この作品は、単なる形式的な表現を超えて、個人的な現実のビジョンを表現することへの彼の関心を反映しており、これこそがゴーギャンを印象派から決定的に決別させることになった特徴です。この作品の前で、背景の抽象化、動きの感覚、構図や瞬間の儚さを捉える写真の影響など、その卓越した要素に注目してください。

① 詳細情報および

入場券に関しては以下をご覧ください

ください：www.bilbaomuseoa.eu/



▲ コルドバ美術館
美術館



▲ ピカソ美術館
バルセロナ

バルセロナの ピカソ美術館

秘密めいた雰囲気漂う細い路地をたどってゴシック地区を歩いて行くと、モンカダ通りに着きます。ここには、バルセロナを訪れたら絶対に見逃せない絵画館があります。13世紀と14世紀に建てられたゴシック様式の5つ館を修復・改装して造られたピカソ美術館、ここではマラガで生まれた天才画家の人生とその作品にどっぷりと浸かることができます。

ピカソの幼少期と思春期はバルセロナと深い関わりがあります。画家の友人であり秘書であったジャウマ・サバルテスは、ピカソがこの街で絵画を学んだ時代および晩年の作品をバルセロナに寄贈し

ています。この美術館は、ピカソとバルセロナとの深い関わりを知る絶好の場所と言えるでしょう。彼がたった15歳の頃に描いた自画像や両親をモデルにした作品に見られる巧みさと確かな技術に驚かされることでしょう。

5つの館からなるミュージアムの異なるスペースをめぐって行くに従い、「道化師」(Arlequín)、「科学と慈愛」(Ciencia y caridad)、あるいはベラスケスの名作を研究し、批評した作品であるキュビズムの「ラス・メニーナス」(Las Meninas)など、ピカソが技法や画法に熟達して行くのが分かります。

また、別のスペースに展示されている、彼の代表作である**ゲルニカ**の制作過程で**描かれたスケッチ**、**セラミックの作品**、および**版画のコレクション**なども是非、お見逃しなく。

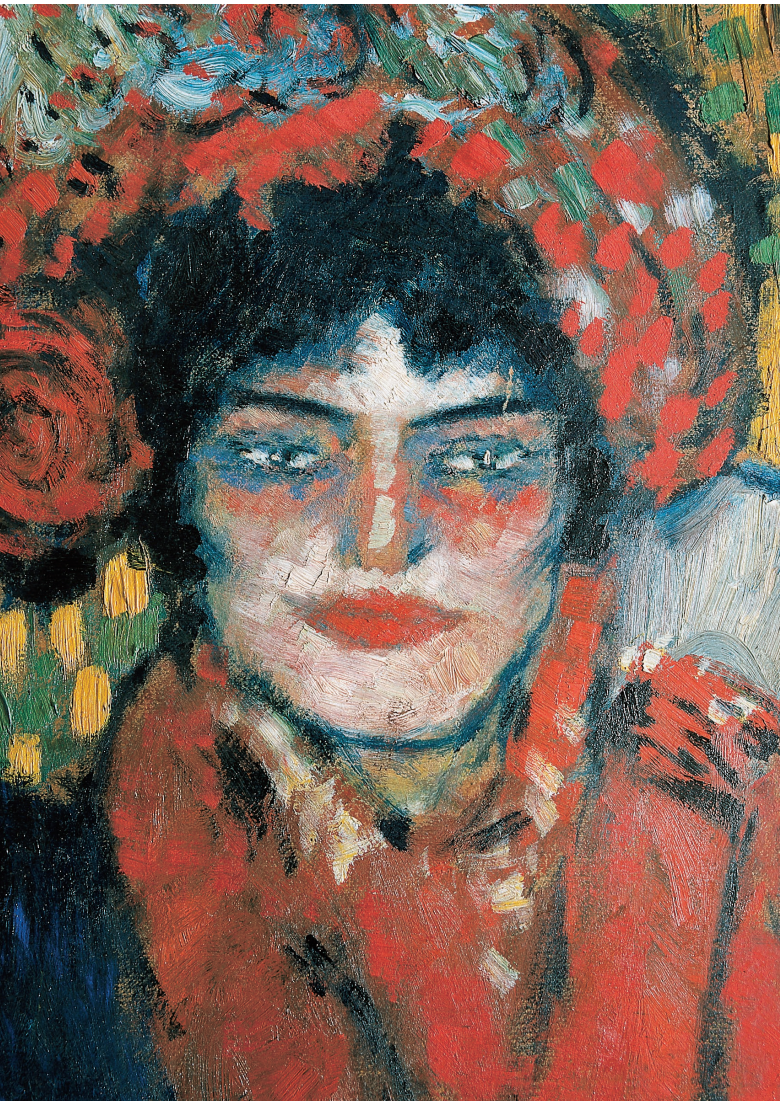
展示作品の鑑賞の後は、ブックショップに立ち寄ってみませんか。書籍はもちろんのこと、マラガ生まれの天才画家の代表作をモチーフにした様々なグッズやお土産もそろっています。

ピカソ美術館はまた、画家が家族と共に住んだ家、画家として初めて構えたアトリエ、あるいはカタルーニャ建築家協会のピカソの壁画などを訪ね歩く「バルセロナでピカソをたどるルート」の出発地点にもなっています。



写真：csp/123rf.com

▲ ピカソ美術館
バルセロナ



見逃せない名作

「待ち時間」または「マルゴット」
(*La espera o Margot*)、ピカソ

あふれるような色彩が、20世紀初頭にピカソが暮らしたパリのナイトライフを再現しています。赤い服を着たこのミステリアスな女性に近づいて良く見ると、ヴァン・ゴッホやトゥールーズ＝ロートレックの影響が、シルエットを黒で囲み、太く荒い筆遣いで描かれていることが分かります。

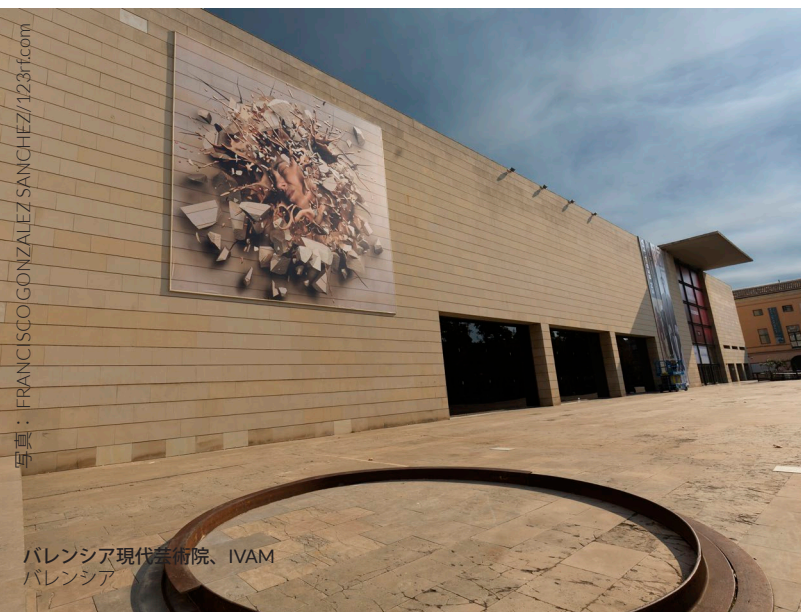
① 詳細情報および入場券に関しては
以下をご覧ください：

museupicassobcn.cat/es

バレンシア 現代芸術院 (IVAM)

トゥリア庭園の長い公園に面して建つバレンシア現代芸術院 (IVAM)、その内部にはスペイン現代アートの最高傑作のいくつかが展示されています。大きな窓があるため、澄みきった明るさに満ちた展示スペースを散策しながら、スペイン現代美術の先駆けとなったフリオ・ゴンザレスの彫刻やイグナシオ・ピナソの絵画など、優れた作品を鑑賞しませんか。

最先端の現代アートに興味のあるあなたには、最新のビデオアートや人気のアートトレンドなどを観ることができる期間限定の特別展示がおすすめです。正統派がお好きであれば、歴史的前衛の流れをもたらし、スペインでも人気を得たジャン・アルプ、アレクサンダー・カルダー、パウル・クレー、ロベール・ドローネーなど世界的アーティストの作品がおすすめです。もちろん、ポップアートや60年代から70年代にかけて台頭したその他の芸術表現も忘れてはなりません。



バレンシア現代芸術院、IVAM
バレンシア

バレンシア現代芸術院、IVAM
バレンシア

写真：radub85/123rf.com



写真：radub85/123rf.com

バレンシア現代芸術院、IVAM
バレンシア

バレンシア現代芸術院 (IVAM) のコレクションにはあらゆるタイプの芸術作品を観ることができます。絵画や彫刻はもちろんのこと、グラフィックデザイン、フォトモンタージュ、写真などについても、マン・レイ、ロバート・キャパやブラッシャイなど、20世紀を代表するアーティストの作品を展示するスペースがあります。

しかし、このミュージアムを訪れた人が一番驚くのはやはり、期間限定の特別展が開催される「城壁の間」(Sala de la Muralla)でしょう。建物の真ん中を端から端まで貫通する形で、中世にバレンシアの街に造られた城壁の遺跡が保存されているのです。この街の歴史を直に伝える城壁とそこに展示される現代アート、両者が生み出すコントラストが観る者にインパクトを与えます。

館内を一回りしたら、トゥリア庭園の緑を見渡すカフェテリアのテラスで一息入れましょう。



▲ バレンシア現代芸術院、IVAM
バレンシア



見逃せない名作

「鏡の前の女」(Mujer ante el espejo)、 フリオ・ゴンサレス

このキュビズム彫刻の作品には、「鉄の匠」と呼ばれたフリオ・ゴンサレスのすべてが凝縮されています。1930年代にピカソとコラボしたこのアーティストは、持ちうる全ての想像的精神を、鉄の板や棒の溶接に注ぎ込みました。現代彫刻家の最高傑作とされるこの作品を前にすると、女性の横顔、それを写す鏡、抽象的なフォルムといくつもの視点、そういったものを観ながら、何時間でも過ごすことができます。

① 詳細情報および入場券に関しては
以下をご覧ください：www.ivam.es

ダリ劇場美術館 フィゲラス

ダリ劇場美術館へ足を踏み入れることは、この天才アーティストの潜在意識の扉の鍵穴を覗くようなものです。

スペインにおけるあらゆる芸術の中で最も分類が難しいと定義されるダリの芸術、建物自体がその芸術作品であるこのミュージアムの前に立つと、シュルレアリスムの世界へと誘う魅惑的な旅の出発点という感じがします。

車の中で雨が降っていたり、マエ・ウエストの唇がソファーになったり、象の形をしたジュエリーが輝いていたり、楽しい驚きがいっぱいです。まるで夢か妄想のように感じますが、あなたは今、世界で最も大きなシュルレアリスムの作品の中にいるのです。そして、まだまだいろんなものが見えてきますよ。

ここでは、すべてが見かけとは違う意味をもっています。すべての作品は二重の意味を持っています。あらかじめ定められた順路のない館内をめぐっていると、それぞれの作品に込められた小さな秘密や大きな驚きが見えてきます。

「私自身がシュルレアリスムである」と言ったダリの言葉、この他に類のない空間がそれを証明しています。かつてフィゲラスの市営劇場だった廃屋を、ダリ自らが計画を立てて、改装して造ったこのモニュメント、外壁には金色のパンがちりばめられ、屋根には巨大な卵が見えます。内部には妄想と狂乱の世界が待っています、さあ、準備はいいですか。

順番に観て回るための年代表示や説明パネルなどを探しても無駄です、そういう



▲ ダリ劇場美術館
フィゲラス

ものはありません。初期の頃の印象派、点描画や未来派の作品からシュルレアリスムの創作物、そして晩年の絵画作品に至るまで、ここにはダリのすべての時代の作品と一緒に展示されています。そして、彼自身の亡骸もここに葬られています。地下礼拝堂の大きな大理石の墓石の下に眠っています。



写真: Iakov Filimonov/123rf.com

何も考えず、子供になった気分で、ダリが仕掛けたいろんな遊びやシンボルやメッセージをみつけましょう。



写真: Pavel Lipskiy/123rf.com

ダリ劇場美術館
フィゲラス

館内は、驚きの連続です。夜になると照明が入る巨大なジオデシック・ドーム、一見、崩れて見えるけれどもレンズを通して見ると整って見えるアブラハム・リンカーンの肖像、様々なポーズで作られたいくつもの巨大な金色のマネキンなどなど…そして、生涯を通じた伴侶であり、彼のミューズでもあったガラを彷彿させるものが至る所にあります。

ダリの作品以外にも、「名作の間」(Sala de las Obras Maestras)には、彼が所有したプライベートコレクションの一部が展示されており、メソニエ、エル・グレコ、マルセル・デュシャンやブグローなど、ダリの好きだった画家たちの作品を観ることができます。別館には計り知れない価値をもつ宝物が展示されています。美しい石たちが天才の手によって魅惑的なデザインに生まれ変わったジェリーの数々です。

マエ・ウエストの間、サルバドール・ダリ

ダリの手にかかると、芸術は遊びになりました。ここにその例があります。アメリカ人女優、マエ・ウエストの顔を家具付きの部屋にしてしまいました。セーヌ川を描いた2つの絵が目、暖炉が鼻、そしてソファが口になります。家具のある部屋へ行ってそれぞれのパーツを近くで見たり、階段を上がって上の階へ行き、特殊なルーペを使ってハリウッドスターの顔を3Dで見たりできます。

① 詳細情報は以下をご覧ください：

www.salvador-dali.org/es/museos/

▼ マエ・ウエストの間 サルバドール・ダリ
ダリ劇場美術館





写真：© Enrico Cano

▲ ボティン・センター
サンタンデル

ボティン・センター、サンタンデル

このアートセンターは、サンタンデル湾を見渡す歴史深いペレダ庭園内という市内の恵まれた場所にあります。建築家でプリツカー賞を受賞したレンゾ・ピアノが設計した建物の特徴は、光と軽さです。海に浮かぶ「波止場」として構想されたその構造は、木のてっぺんの高さまでそびえ立つ柱と柱に吊り下げられ、環境と一体化し、カンタブリア海の絶景を望みます。

館内には現代美術に特化したボティン財団のアートコレクションが収蔵されており、絵画、彫刻、写真、素描、ビデオ、インスタレーションなど、さまざまなメディアや形式による作品が展示されています。展示作品には、タシタ・ディーン、アントニ・ムンタダス、モナ・ハトゥーム、ヤニス・クネリス、フアン・ウスレ、クリスティーナ・イグレシアスやマーティン・クリードなどの著名な世界のアーティストによる

作品に加えて、財団の奨学生の作品が含まれています。そのすべてがコンセプト、軌跡、世代が共存するモザイクを構成し、現代芸術の証となっています。

この考え方は、同センターが建物の内外で展開する特別展示、ワークショップ、文化活動のプログラムに反映されています。ペレダ庭園とその周囲の広場では、屋外アートを楽しみましょう。この場所は、あらゆる種類の観客を対象としたコンサートや舞台芸術ショー、映画上映会、討論会、創造的なプロジェクトの舞台となっています。

店舗の隣にはグルメスペースであるCafé Centro Botínがあります。庭園とサンタンデルの海を眺めながら、料理をお楽しみください。



写真：© Vicente Paredes・C・ボティン

▲ 「あなたが明かす夢を見た。招かれた客」、フアン・ウスレ
ボティン・センター、サンタンデル

見逃せない名作

「あなたが明かす夢を見た。招かれた客」

フアン・ウスレ

「あなたが明かす夢を見た」は、フアン・ウスレが20年以上描き続けているシリーズです。彼はよく夜の静けさの中で自分の心臓の鼓動に耳を傾け、その鼓動の一つひとつを絵筆に乗せて描いています。このようにして、絵画はその本質的な生命力と時間の経過の痕跡となるのです。抽象化の歴史とつながる一種の「自画像」です。夜の闇を想起させる色の配色、そして楽譜を思わせる句読点としての線に注目しましょう。

① 詳細情報および

入場券に関しては以下をご覧ください

ください：www.centrobotin.org/



▲ ボティン・センターカフェ
サンタンデル



▲ 現代美術館ヘルガ・デ・アルベアール
カセレス

現代美術館 ヘルガ・デ・アルベアール カセレス

あたかも過去と現在の間のコミュニケーション手段を確立するかのように、博物館はユネスコの世界遺産に登録されているカセレスの歴史地区とこの街の最も近代的な部分を隔てる想像上の境界線を占めています。美術館はスペインで最も重要な現代美術の個人コレクションを収蔵するために特注さ

れた白いコンクリートの建物であり、ヨーロッパを代表する美術館のひとつでもあります。

収集家のヘルガ・デ・アルベアが最初の芸術作品を購入したのは1967年であり、それから現在ではそのクオリティ、幅広さ、多様性で際立つ3,000点以上の作品を収集しまし

た。オラファー・エリアソン、ルイズ・ブルジョワ、ドリス・サルセド、タシタ・ディーン、クリスティーナ・イグレシアス、アイ・ウェイウェイやそのほか多くの著名なアーティストによる大型のインスタレーションや彫刻、絵画、ビデオアート、写真の作品が展示されています。

すでに入口ホールからアイ・ウェイウェイ作の象徴的なランプ「ディセンディングライト」によって現代芸術作品の心躍る旅が始まります。ここでは、芸術家マリオ・メルツの有名なイグルー「ジャルディニエールの家」、そして外の庭園にはウーゴ・ロンディノーネ作の樹齢100年のオリーブ樹の彫刻「こんな日は何もなくて、何も無い」があります

美術館には約150点の作品が半永久的に展示されており、訪れる人に新しい体験を提供できるように定期的に変更されます。年間を通じて、コレクションへの新たな洞察を提供する特別展示会やガイド付きツアー、コース、子供向けのワークショップなどのアクティビティも行われています。



写真：© Amores Pictures

▲ 建物内部の眺め。現代美術館ヘルガ・デ・アルベアール。カセレス



写真：© Joaquin Cortes, ヘルガ・デ・アルベアール美術館

▲ 「フェイクロック」、カタリーナ・グロス
現代美術館ヘルガ・デ・アルベアール、カセレス

見逃せない名作

「Faux Rocks」、 カタリーナ・グロッセ

このインスタレーションは見る人全員を驚かせます。幅7メートル、高さ3メートルのとても大型の絵画です。作者であるドイツ人のアーティスト、カタリーナ・グロッセにとって、スケールは非常に重要な役割を果たしています。このため、彼女の作品の主な特徴の1つは、作品、空間、鑑賞者の間に確立できる一連の関係性です。

① 詳細情報および

入場券に関しては以下をご覧ください

ください：www.museohelgadealvear.com/

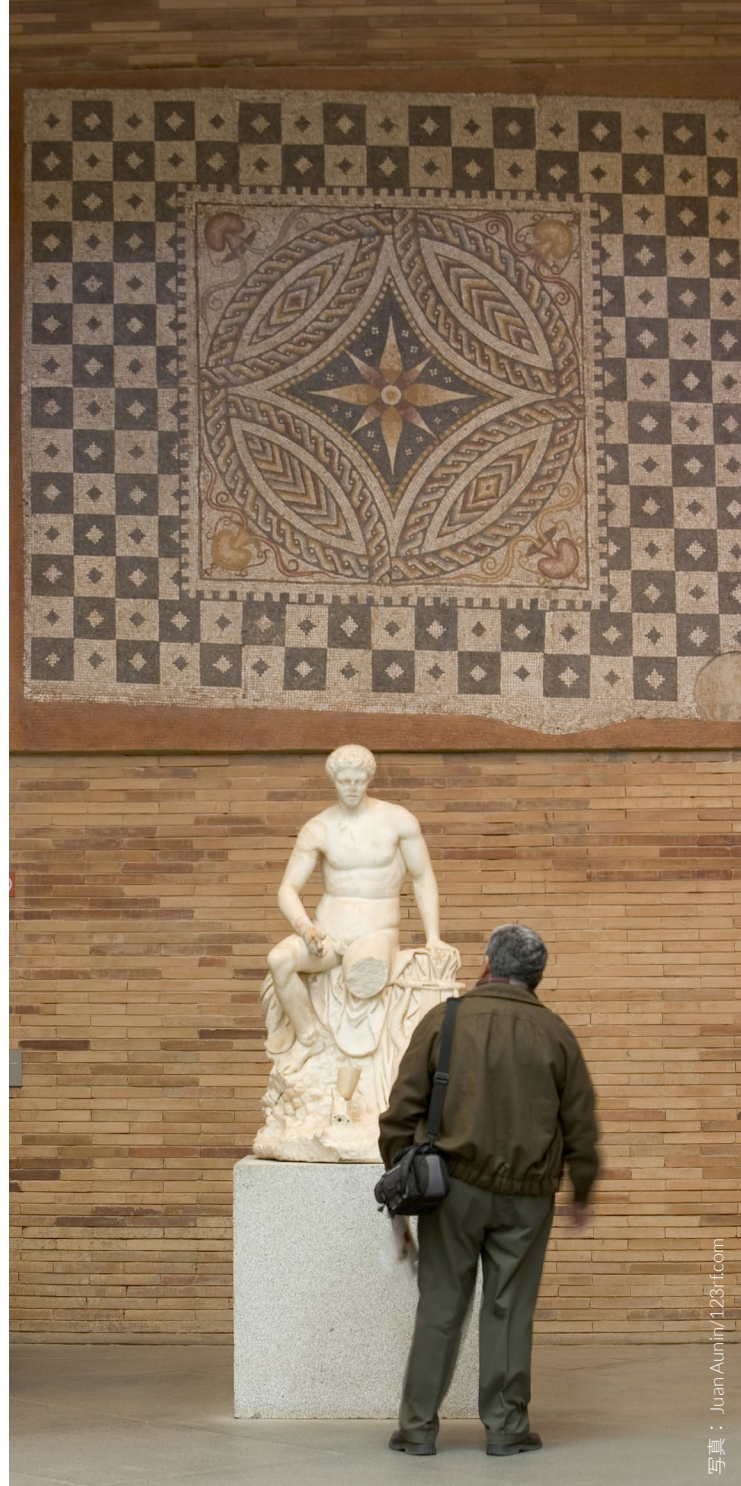
メリダ国立 古代ローマ博物館

ラファエル・モネオのデザインによるこのミュージアムは、前衛建築と古代ローマという遠い過去とが出会って生まれました。ここでは、ローマ帝国属州ヒスパニアの植民都市のひとつ「エメリタ・アウグスタ」に暮らした人々の日常の様々な場面を観ることができます。

初代ローマ皇帝、アウグストゥスにちなんで当時こう呼ばれていたメリダの街には、様々な通りや主要なモニュメントなどに、ルシタニアの首都にまでなった過去の栄華をしのばせるものが今でも残っています。この遺跡群とその美術館はユネスコの世界遺産に登録されています。ローマ劇場と円形劇場のすぐそば、ギャラリーを介してそれらと繋がっている国立古代ローマ美術館 (MNAM) は、塀のオレンジ色とむき出しのレンガでつくられた壁とのコントラストが印象的です。

ゆったりと大きな建物の中、天窓から射す光を浴びて高く伸びたアーチが並ぶ空間をのんびりと歩いてみませんか。この空間は、ローマ神話に登場する神々を表す彫刻群、ローマ皇帝の胸像や肖像画、そしてこの街の遺跡から発見されたあらゆる種類の考古学的出土品などに完璧な背景を提供しています。壮大な「御者のモザイク」(Mosaico de los Aurigas)をはじめとするモザイクもいくつか展示されています。これはメリダで発掘された最も大きなモザイクのひとつで、2輪馬車を御する者の図が横並びで2つ描かれていることからこの名が付いています。

4つのフロアから成り、テーマ別の30の展示室があるこの美術館で過ごす時間は、忘れ難い体験となることでしょう。



▲ 国立古代ローマ美術館
メリダ

ローマの道を通り抜けたら、階段を下りてクリプタへ行くか、あるいは奥に進んで、壁に円形競技場で行われるスペクタクルが描かれている、ローマ時代の部屋を忠実に再現した空間へ入ってみましょう。

見逃せない名作

イノシシ猟のモザイク

古代ローマのモザイクは、裕福な家や公共スペースの床張りに使われていました。この非常に大きなモザイクは、「ビジャ・デ・ラス・ティエンダス」と呼ばれた裕福な家の館の跡から見つかったもので、「エメリタ・アウグスタ」社会の富裕層が趣味とした狩猟の様子を描いています。近づいてモザイクを構成している小さな嵌石を見てください、いかに膨大な数の嵌石が必要か分かります。

- ① 詳細情報および入場券に関しては以下をご覧ください：
turismoextremadura.com/viajar/turismo/es/explora/Museo-Nacional-de-Arte-Romano-MNAR/

▼ イノシシ猟のモザイク
国立古代ローマ美術館、メリダ



▲ 古代ローマのドムス、国立古代ローマ美術館
メリダ





写真：pabkov/123rf.com

▲ ポンピドゥーセンター
マラガ

ポンピドゥーセンター、マラガ

コスタ・デル・ソルと言えば、理想的な気候、広い砂浜、整ったマリーナなどで世界的に知られています。しかし、魅力あふれるコスタ・デル・ソルの首都マラガには、パリにあるポンピドゥー国立芸術文化センターのフランス以外初の分館として造られたポンピドゥーセンターをはじめとする興味深いミュージアムがたくさんあります。

パセオ・エスパーニャ遊歩道の緑の庭園と地中海の青い海、そしてムエジェ・ウ

ノ(Muelle Uno)と呼ばれるショッピングエリアとに囲まれた場所に、カラフルなガラスで覆われたキューブを冠したこのミュージアムがあります。

階段を下りて、地下にある巨大なギャラリーに向かいましょう。館内ではあらゆる芸術が混在する様を見ることができます。ここでは作品たちが主役です。自由気ままに観て回るもよし、このセンターの専門家チームと一緒に参加型の鑑賞を楽しむこともできます。

そして、建築デザインは脇役に徹していません。明るい空間に展示されている20世紀から21世紀の作品を観て回ると、マルク・シャガール、ルネ・マグリット、フリーダ・カーロやフランシス・ベーコンなど、主役の名に相応しいアーティストらの作品に出会うことができます。そしてもちろん、マラガ生まれの画家、パブロ・ピカソの作品も、「花飾りの帽子」(El sombrero de flores)などをこのポンピドゥーセンターで観ることができます。

常設展を構成する70を超える作品はパリのポンピドゥーセンターが所蔵するコレクションで、既成概念を破壊する現代アートのトレンドを反映するその他の作品たちと共存しています。常設展の内容は2年半ごとに更新され、特別展も年間2~3件開催されています。従って、訪れるたびに異なる作品展示で新たな感動と芸術体験を提供してくれます。



▲ 「庭の老女」(LA VIEJA DEL JARDÍN)、フランク・ステラ
ポンピドゥーセンター、マラガ

見逃せない名作

「庭の老女」(La vieja del jardín)

フランク・ステラ

アメリカ人の画家・彫刻家、フランク・ステラは、80年代半ばに制作されたこの抽象画の中に、円錐、柱、曲線やその他の建築的要素を彫刻的な手法で表しています。小さな穴がたくさんあるアルミパネルと11の要素の上にアクリル絵具、ラッカーエナメル、蛍光塗料などを重ねて作った表面の大きな起伏は見る者を圧倒します。

① 詳細情報および入場券に関しては
以下をご覧ください：

centrepompidou-malaga.eu



▲ ポンピドゥーセンター
マラガ



セビージャ 美術館

セビージャ歴史地区の趣のある小さな広場に、かつてラ・メルセ・カルサダ修道院だったこの壮麗な建物が立っています。現在はスペインのバロック絵画の至宝とされる多数の作品を展示する美術館となっています。

噴水や美しい柱がある静寂なパティオ、回廊や柵で囲まれた奥まった空間、そして堂々たる階段、これら全体が、スペイン宗教芸術の傑作とされる絵画や彫刻を

鑑賞するのに理想的な空間を創り出しています。

見事なタイルで覆われた外壁や壁、美しく装飾されたボールドや天井など、典型的な修道院建築で造られたこの建物には現在、16世紀～17世紀にかけての「黄金世紀」と呼ばれた時代を代表する3人の画家の作品を中心とする絵画が所蔵されています。その画家とは、スルバラン、バルデス・リアル、そしてムリーリョです。

中世から20世紀まで、時代順に作品を配置した展示室には、大きなサイズの絵画はもちろんのこと、その他に、陶器、金銀細工、武器、家具などの装飾芸術作品も展示されています。

第5展示室の広い空間で、ムリーリョのバロック絵画が創り出す美しく力強い世界に浸ってみませんか。「ラ・コロサル」(La Colosal)と呼ばれる「無原罪のお宿り」(*Inmaculada Concepción*)では、体の動きや衣服の描写の巧みさが目を引きまします。また、常設展コレクションにはエル・グレコによって描かれた彼の息子の肖像画、ベラスケス作の「使徒の頭部」(*Cabeza de Apóstol*)やゴヤ作の小さな肖像画など、多くの貴重な作品も含まれています。

そして、EU圏の市民の入場は無料となっています。スペイン宗教絵画の傑作を間近で鑑賞するまたとないチャンスです。



▲ 「無原罪のお宿り」(*INMACULADA CONCEPCIÓN*)、ムリーリョ
セビーリャ美術館、セビーリャ

見逃せない名作

「無原罪のお宿り」(*Inmaculada Concepción*)、ムリーリョ

このミュージアムの主役は間違いなくムリーリョですが、彼はセビリアの芸術史を代表する画家と言えます。カプチン派修道院の有名な祭壇の一部だったこの傑作、天上世界と世俗世界を並列させた構図の中で、作者は光と色を巧みに操っています。



▲ セビーリャ美術館
セビーリャ

驚きに満ちた その他の ミュージアム

抽象芸術、科学、おもちゃ、ミニチュア、そして海底博物館まで、様々なミュージアムがあります。スペインには非常に多様な分野のミュージアムがたくさんあるので、どこに旅しても、ミュージアムを訪ねればスペインの文化や歴史を知ることができます。

▶ スペイン抽象芸術美術館
クエンカ

写真：Juan Jimenez Fernandez/123rf.com



MUSAC (カスティーリャ・イ・レオン現代美術館) で最初に興味を引くのは、建物を覆うカラフルなガラスでしょう。ヨーロッパにおける建築界の最高栄誉であるミス・ファン・デル・ローエ賞を2007年に獲得したこの建物は、レオンの大聖堂のステンドグラスへのオマージュを表現しています。館内では現代アートの最新作品を観ることができる他、この地方の画家と芸術の国際的トレンドとのつながりを見ることができます。

① www.musac.es

世界遺産に登録された都市であるクエンカを象徴する建物である宙吊りの家(Casas Colgadas)の中で抽象美術に遭遇するなんて、誰が考えるでしょう？ 木製バルコニーから真下にウエカール川の渓谷を望むことができる、15世紀に創られたこの建物は現在、**スペイン抽象芸術美術館**となっています。1950年代から60年代のスペイン美術の絵画や彫刻から成るコレクションは、自然や歴史が創り出すクエンカの景色と非常に対照的です。

① www.march.es/arte/cuenca

マドリードの文化に触れられる場所は、パセオ・デル・アルテだけではありません。街を歩けば、あらゆる嗜好に合う、大小さまざまなミュージアムがあります。ひとつの例として挙げられるのが、**ソローリャ美術館**です。バレンシア出身の画家が住んだ家に造られたこのミュージアムは、一度訪ねたら、あまりの美しさに再度訪れたいくなることでしょう。ソローリャ自身がデザインした庭園は、街

の喧騒から隔離された、まさにオアシスと呼べる空間となっています。画家が遺した絵画やデッサンの著名な作品が展示されている他、ソローリャが生前に蒐集した彫刻、陶器、ジュエリーなどのコレクション、および画家と家族の写真なども観ることができます。

① www.culturaydeporte.gob.es/msorolla/

▼ ソローリャ美術館
マドリード





▲ サン・セバスティアン水族館

驚くような体験を求めるあなたには、バレンシア**芸術科学都市**の前衛建築群、バルセロナ**海洋博物館**のガレー船原寸レプリカ、サン・セバスチャン**水族館**のクジラの骨格などがお薦めです。あらゆる時代、あらゆる文明の香水を5000種類以上集めたバルセロナの**香水博物館**、あるいは**アストルガのチョコレート博物館**(レオン)はスペインで最も興味深い場所の例と言えるでしょう。

① www.cac.es

www.aquariumss.com

www.astorga.co/es

① 詳細情報は以下をご覧ください：

www.mmb.cat/es

しかし、スペインで最もユニークなミュージアムと言えば、それはやはりカナリア諸島にある**ランサロテの大西洋博物館**でしょう。海底に造られたアートギャラリーは、イワシやタコが泳ぎ、海綿動物たちがそよぐ中をあなた自身もダイビングで潜り、アメリカ人アーティスト、ジェイソン・デカイレス・テイラーが創作した12の作品群を観て回ります。ランサロテ島に住む人々をモデルとして創られた人物像は、大西洋を海洋汚染から守るためのメッセージなのです。すべての作品は、海洋生態系に適合し、やがて人工岩礁になるように化学的に中性の素材で作られています。博物館の見学と必要な15メートルのダイビング証明書は、ランサロテのダイビングセンターで手続きできます。

① **詳細情報は以下をご覧ください：**

lanzaroteesd.com/oferta-deportiva/buceo-en-lanzarote/



X @spain

Instagram @spain

Facebook Spain.info

YouTube /spain

TikTok @visitSpain